

26

全国の華岡流全身麻酔下の手術件数

土手健太郎, 藤谷 太郎, 矢野 雅起, 高石 和

愛媛県立中央病院麻酔科・集中治療部

【はじめに】華岡青州の全身麻酔・外科手術手技は、全国的には広まらなかったとされていたが、近年になり地方の郷土史や医師会史などの情報から、少しずつ地方での華岡流の発展の状況が分かるようになってきた。しかし、これらを統合した全日本的な研究は少ない。そこで我々は、日本全国において華岡流の全身麻酔下手術が何処で何件行われたかを、入手可能な文献・論文・著書・インターネット情報を用いて検索・検討したので報告する。

【方法】全国の入手可能な文献・論文・著書・インターネット情報を用いて、手術日、患者氏名、術者氏名、手術内容などが記載された華岡流の全身麻酔下手術例を蒐集し、検索・検討した。

【結果】当時の手術記録や手術時の書き込みなど手術の実施の確固たる証拠が存在する患者の手術のみを確認された対象として計算した。その結果、九州では5か所7件、中国四国では5か所122件、近畿では5か所291件、中部では2か所95件、関東では5か所43件、東北では1か所1件で、合計すると熊本から青森まで合計23か所559件であった。最も多かったのは、和歌山の華岡青洲鷺洲厚堂258件で、続いて岐阜の不破廉斎杏斎94件、愛媛の鎌田玄台93件、岡山の難波抱節経直24件、大阪の華岡鹿城南洋23件、茨城の本間玄調23件、茨城の結解素庵12件であった（10件以上の手術の記述が残っているもの）。そのほか、15か所32件であった。

【考察】華岡流手術は熊本から青森まで合計559件で行われていた。和歌山華岡家と岐阜不破家では、ほとんどの手術の記録であると考えられる。愛媛鎌田家、茨城本間家では、各種の手術報告は残っているが、これは、数十例以上の手術を行ったうえで代表的のものを記載したものである。岡山難波家では、1815～19年間の手術の多くは記載されたが、その他の時期にも手術は行われたと思われるが記載は残っていない。大阪華岡家でも一部の手術の記録が残っているだけと思われる。外科の大家としての顕彰碑は残っているものの手術の具体例が残っていない華岡流門人も存在した。以上より、手術の確固たる証拠が存在する手術数は559件であるが、本当の手術数は大幅に増える可能性がある。

【結論】

150～200年後の現在においても手術の実施の確固たる証拠が存在する華岡流全身麻酔下の手術は559件であった。熊本から青森まで23か所で実施され、和歌山の華岡青洲、岐阜の不破廉斎、愛媛の鎌田玄台の手術記載が多かった。確固たる証拠はないものの、多くの乳癌手術を行っていたと考えられる華岡流門人も存在しており、本当の手術数は大幅に増えると考えられる。